

“渋沢栄一翁の精神”を広める取組

1 現状

- 深谷市教育委員会では、渋沢栄一翁の精神を受け継ぐ「立志と忠恕の深谷教育」を推進し、教育活動を展開していく中で、令和元年度に「ふるさと ふかや・渋沢学」を立ち上げ、「オール深谷」で「ふるさと教育」に取り組み、今年度「ふるさと ふかや・渋沢学フォーラム」を開催するまでに至った。
- フォーラムの中では、「ずっと住み続けたいまちづくり」をテーマにした中学生代表による意見交流を通して、SDGsを念頭に置いた「環境を守る」「安心・安全なまちづくり」「学びを大切に」「人と人とのつながりを深める」の4つの提言がなされた。その意見交流の中で、生徒が主体的に自己の在り方を考え、仲間とともに協働的によりよい社会づくりに向かう気概が示されたことから、生徒の夢や希望を大切にする取組が求められていると考える。また、深谷市が生んだ渋沢栄一翁は、「一生を有意味に生き抜くようあらかじめ志を決定することが大事である」という言葉を残し、将来を見据えて志を立てることの大切さに言及している。持続可能な社会づくりが求められる今、栄一翁のそうした精神を広め、夢や志を育む新たな取組が求められている。
- 他方、今年で16年目となる「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」事業を通して「忠恕」につながる取組を実践してきているが、新一万円札発行を機に、改めて、渋沢栄一翁の精神を全国に広めていく意義があり、その取組のさらなる定着を図っていく。

2 事業概要

【これまでの取組】

(1) 「ふるさと ふかや・渋沢学」(教育委員会)

- ア 目的 渋沢栄一翁の精神を育み、持続可能な深谷のまちづくりに貢献できる人材を育成していく。
- イ 主な対象者 幼・保・小・中・高・大の幼児児童生徒学生及びこれら関係機関・関係団体
- ウ 主な取組
 - (ア) 「渋沢翁語らいの日」
 - (イ) ふるさと ふかや・渋沢学フォーラム 【令和5年11月10日(金)】
- エ 成果 フォーラムでは、1677人の来場と市内小・中学校のビデオ会議システムでの参加があり、「栄一翁のことをもっと知りたい」という気持ちや故郷を思う心を育むことができ、来年度以降のふるさと教育の指針を示すことができた。

(2) 「渋沢栄一ひとづくりカレッジ推進事業」(渋沢栄一政策推進部)

- ア 目的 道徳と経済を両立させている経営者からひとづくりの知恵を学ぶ場及び深谷から全国へとその知恵とご縁の輪を紡ぐプラットフォームの構築と未来を切り拓く経営人材の育成。
- イ 主な対象者 小中高・大学生、起業創業を目指しているかた、中小企業の経営者・役員
- ウ 主な取組
 - (ア) 渋沢ネットワークの構築・連携
 - (イ) ひとづくりの知恵を学ぶ道場「渋沢栄一ひとづくりカレッジ」の開講
 - (ウ) 渋沢栄一ひとづくりフォーラム2023 【令和5年11月11日(土)】
- エ 成果 東京商工会議所を中心とした12者による連携協定のもと、埼玉工業大学と協働し、栄一翁が設立に関わった企業のカルタの作成を進めている。フォーラムでは750人の参加があった。

【現状と課題】

- これまでの取組を通して、子どもから大人まで、市全体で渋沢栄一翁の精神を広めることができています。
- 「立志の精神」と「忠恕の心」を2つの大きな柱として、事業を展開してきている。「忠恕の心」を広める取組として「手紙でつむぐ『ありがとう』の思い」事業とあわせ、「立志の精神」を広める取組が求められている。

【新たな取組】

(3) 渋沢栄一翁の“立志の精神”を広める新たな取組 (事務局案)

- ア 主な取組
「志と未来をつなぐ」栄一翁作文コンクール ～ はばたこう みんながうれしい未来へ ～

- ① 渋沢栄一翁の精神や憧れの著名人の生き方に触れ、将来の夢を考えるなどして、未来への志を持つ。
- ② 社会貢献の視点や持続可能な社会の実現に向けて自分にできることを考える。
※ ①と②を主な内容とした200～400文字の作文を市内外から公募

イ 目的

「栄一翁の精神」を受け継ぐ取組として、「立志」の精神を広めていく。

ウ 対象者及び内容等

- a 部門 小学生(5年生以上) ・中学生 ・高校生 ・大学と一般 の4部門
- b 選考・表彰 各部門から20作品ずつを入選とする。
上記20作品のうち、最優秀賞、優秀賞、特別賞等を表彰する。
- c 取組までスケジュールについて
 - 令和6年度 4月 実行委員会(全体)や専門部会の発足
 - ～6月 取組内容検討・取組の補正予算請求
 - 7月 新札発行の機会に取組実施の告知

d 懸案事項

- 実施体制について：実行委員会を立ち上げて事業を進めていきたいが、どのような組織体制をとるのがよいか。
- 審査体制について：1次審査 応募されたもの → 各部門100作品 への絞り込み
2次審査 各部門100作品 → 各部門 20作品 への絞り込み
3次審査 各部門20作品 → 各部門 5作品 への絞り込み

1次審査の審査員(200人程度)、2次審査の審査員(20人程度)はどうするか。
3次審査の審査員(10人程度)として、どのような有識者を選定するか。

3 協議事項

渋沢栄一翁の“立志の精神”を広める新たな取組について

(1) 本取組の内容について

(2) 本取組の懸案事項について